留学生の声

塾内在籍高校・学年（派遣時）	慶應義塾高等学校　2 年
留学先高校名	Winchester College
留学期間	2016 年 9 月　から　2017 年 6 月　まで

課外活動について

運動は、日本で前からやっていた陸上を続けることを選びました。冬はクロス・カントリーが主で、泥、木の根、止まない雨、そしてどこまでも続くイギリスの丘と親しくなりました。校内では上級生の多くが参加する 11km のレースや寮の学年から一人ずつ選出しての寮対抗リレー（1km×5 人）、ランニング・クラブでは他のボーディングスクールと行う学校対抗のクロカン・リレー（3～5km×4 人）に出場し、郊外ではハンプシャー州の代表に選ばれ、州対抗のレース（7km）に出場しました。どの学校もフルタイムの部活方式ではないため選手層の厚さはありませんでしたが、上位に入賞する選手はとても敵わないレベルで、世界レベルの中距離選手を輩出している本場イギリスの実力を垣間見た気がしました。
春のトラック・シーズンでは、校内の寮対抗陸上大会では個人とリレー合わせて 4 種目に出場・優勝し、自分の寮の十数年ぶりの総合優勝に貢献しました。対外試合もありましたが観客がコースの外側で犬の散歩をしているようなリラックスした雰囲気で、選手・家族・先生が交流を深める貴重な機会になっているようです。最初はかなり驚きましたが慣れてしまえば自分までのんびり走れるいい環境でした。足の運びまでのんびりして記録があまり出なかったのもそのせいでしょうか。本来ひとりのはずの顧問でしたが、陸上経験者やランニング愛好家の先生が参加することで充実したコーチ陣ができており、体力維持のため走りたい人から本気で記録を狙いたい人まで多様な需要に応えられるようになっていました。
音楽でも、前から演奏していたクラリネットを続けることにしました。新しいことへの興味がなかったわけではありませんが、自分の今までの努力と経験を試すと同時に新たな刺激を得たいと思い、陸上と同様、留学先でも継続して活動しました。個人では週一回のレッスンを受けていました。当初は 40 分だったのですが、それでは流れに乗ったところで終わってしまうということで 1 時間に延長しました。レッスンは外部からプロの先生が週に数日訪ねてくるというシステムと取っており、自分がお世話になった先生はもう 40 年もウィンチェスターで教えている大ベテランでした。日本で教わっていた先生とは違うスタイルの方で、自分の演奏に関しても違う切り口で改善点を見つけてもらえました。自分は先生にとって朝一番の生徒だったのですが、よく言われた「君は早起きして教えるに値する」という言葉はたいへん嬉しいものでした。
当初は人数が一杯で入れてもらえなかったオーケストラも年度の後半からは参加することができました。学年末のコンサートではドヴォルザークの交響曲を通して演奏しましたが、相方とソロの奪い合いをしながらの楽しい曲になりました。
また、ジャズバンドにも唯一のクラリネットとして参加していました。この十数人の小さなグループは、全生徒に課せられているコミュニティ・サービス（CS）としても活動しており、小学校を訪問して演奏しながらジャズの基本を教えたり老人ホームに行って往年の名曲を演奏したりしました。ジャズもオーケストラも週一回の練習で、部員の技量も完成度もフルタイムの部活のようにはいきませんでしたが、それでも塾高では不可能な運動との両立ができたことは寮生活の非常に大きな利点でした。

短期・長期休暇はどのように過ごしましたか？

学期の間の休暇はすべてガーディアン宅に泊まり、近辺の博物館や史跡などを巡りました。ナショナルトラストの管理している古い邸宅、11 世紀に建てられたアランデル城、ポーツマスにあるフォートネルソン要塞を流用した王立武器防具博物館など歴史ある場所がとにかく多く、少ない休暇ではまったく足りませんでした。サウサンプトンでのサッカーの試合に連れて行ってもらったこともあり、そこでは普段あまり興味のないサッカーもプロの技を見て楽しむことができました。また、自分から行きたかったところにも数か所行きました。年度の最初の休暇には、ウィンチェスターにひと月ほど滞在していた普通部の先生と一緒にロンドンの英空軍博物館に行きました。連合国らしく豊富な所蔵資料があり、一日かけてやっとのことで回りました。中でも、英空軍の象徴的な二次大戦機・スピットファイアのコクピットに座って計

器や操縦の説明を受けたのは年間を通じてのハイライトであります。5 月の休暇にはドーセットにある戦車博物館にも連れて行ってもらい、各国・各時代の戦闘車両を間近で見てそのデザインやメカニズムを観察しました。日本には一両も残っていない帝国陸軍の軽戦車も隅の方にあるなどコレクションが非常に豊富なのがこちらの博物館も戦勝国らしいところです。飛行機や美術品と違い展示物が頑丈なので特に触ってはいけないということもなく、文字通り肌で歴史を感じることができました。
ガーディアン夫婦が大都市は疲れるので引率できないということで、ロンドンに一人で出かけたこともありました。運賃は高いものの 1 時間半ほどの列車旅で、十分日帰りで済む距離です。慣れないからか、歩き回って疲れてしまい、午後の早いうちに帰ってしまいましたが、ウィンチェスターから出られた数少ない機会でした。

授業について

科目や時期によりムラがあり、復習メインかと思えば急に先に進むこともありました。履修した範囲は日本の在籍高校でカバーしていなかった部分ばかりだったのでレベルを比較することはできません。在籍高校は特に宿題が少ないこともあり、比較するとたいへん多く感じましたが、慣れてしまうと与えられた時間内に余裕をもって終わらせることができました。特にエッセイは慣れないと時間がかかり大変でしたが要領を得てからは計画を立てて進めました。
試験は年に 2 回あり、内容は授業でカバーした問題と少しの応用問題が出題されました。 科目が少なく、記憶する事柄も少なかったため、試験の準備はあまり労力を要さない分、エッセイ問題は特に試験中に考えることが多かったように感じます。

今後の派遣留学生へのアドバイス

日本ではある分野を一通り済ませてから次に向かうのに対し、英国では基礎をカバーしたら他に移り、また後で戻ってきて応用を足していく方式なので、分野によっては我々より進んでいます。例えば数学だと微積の基礎を終わらせていたり、化学だと有機化学の基礎を知っていたり、驚くこともあるかもしれません。しかし、分からないところが出てくるたびに質問して吸収すれば問題なく追いつける速度なので心配して夏休み中勉強するようなことはしない方が賢明かと思います。 あとは日本史をおさらいしていくと質問されたときに答えられることが増えます。イギリスの歴史も概説くらいは読むといいかもしれません。

以上